

第23回地域福祉実践研究セミナー IN 静岡・掛川

ワークショップ 1 報告

住人十色のまちづくり

～多様な人が参加する住人十色のまちづくりは、どのようにしたらできますか～

活動報告者 菅沼 孝行（西山口地区社協）
松浦 成夫（NPO法人時ノ寿森クラブ）
馨 敏郎（真宗大谷派 蓮福寺

）

アドバイザー 宮城 孝（法政大学）
小野 敏明（日本地域福祉研究所）
地域担当者 大場 なつみ（掛川市社協）

参加者状況

1. ワークショップ会場

東部地域健康医療支援センター「東部ふくしあ」

フールドワーク「時ノ寿の森」

2. 参加者

社協	7名	地区社協	30名	施設・事業所	3名
大学教員	4名	個人	1名	掛川市役所	3名
時ノ寿の森	1名	日本地域福祉研究所	3名	報告者	3名
担当職員	2名	体験学習中学生	1名	アドバイザー	2名
大学生	9名				

計 69名

目 的

- 国の政策動向では、様々な場面で、住民による地域課題の解決が求められてきています。しかし、地域社会の状況は、人口減少、少子高齢化、地域活動人材の高齢化など、住民の方々による活動が難しい状況にあります。新たな協働・連携と、新たな地域活動人材の発掘を図っていく必要性があります。本ワークショップでは、掛川市の多様な地域活動に学び、参加者とともに、これらのことについてかんがえていきたい。

展 開 方 法 ①

1. 実践報告

①西山口地区社会福祉協議会の活動報告

報告者 西山口地区社会福祉協議会 企画委員長 菅沼孝行 氏

②地域づくりと結ばれた森林保全

報告者 NPO法人 時ノ寿の森クラブ 理事長 松浦成夫 氏

③時ノ寿の森クラブを舞台にした まちづくりの試み

報告者 真宗大谷派 蓮福住職 馨 敏郎 氏

2. フィールドワーク

西川口内→中心市街地→西郷県道→時ノ寿の森

3. ワークショップ

ワールドカフェ方式で、10グループで、3ラウンド実施

展 開 方 法 ②

- ワールドカフェ

テーマ1 「みんな（子どもから高齢者まで）の声を拾えていますか」

参加者がテーブルを移動し、3ラウンド実施

テーマ2 「どうやって誘っていますか、どんな場や工夫をしていますか」

参加者がテーブルを移動し、3ラウンド実施



～実践報告～



～フィールドワーク～





～ワークショップ～



結 果 (1)

- テーマ2 「どうやって誘っていますか、どんな場や工夫をしていますか」について、各テーブルから出た主な意見
 - 小学校と連携し、子どもとの交流を深め、安全・安心な教育と見守りに努める
 - 小学生と見守りする人の顔合わせ
 - 地域行事等に多くの若者が参加できるようにし、自ら行事に参加し、呼びかけや楽しさを伝えていく
 - 高校生サロンを社会変化のきっかけにする（蓮福寺の高校生サロンを他にも作る）
 - 高校生の意見を聞く機会を作る
 - 世代間交流の場づくり
 - 多世代の声を聞くことができる人材の育成
 - ゴミ出しの日に声かけをする
 - ご近所さんとの井戸端会議
 - 仕事・子育てをする現役の忙しい父母の意見や本音を聞く機会を

結 果 (2)

- 趣味・特技を発揮できる場づくり
- 趣味を活かして、地域活動に役立てる
- 子どもも高齢者も外での出会いの場づくり
- 人が集まる機会づくり
- 人と人がつながる機会をつくる
- 地域に参加できるようなイベントや交流会を開く
- 参加型のイベントを行う
- 行事（お祭り・納涼祭など）で、顔見知りになり、声かけを行う
- 新しく開設するグループホームを地域に開放する（良い関係をつくる）

結論 ・ 今後の展望

1. ワールドカフェでは、注目するようなアイディアはあまり出ていないが、参加者の意見をまとめると「多様な機会で、多様な人が集まる機会の必要性」が上がっていた。
2. 実践報告であった 時ノ寿の森クラブのような福祉とはあまり関わりのない市民活動との連携も必要であることがこれからの地域活動には大切である。その意味では、地域にどのような活動グループがあるのか把握し、そことの連携で、多様な活動人材を確保していくことが大切である。
3. 西山口地区社会福祉協議会の子ども福祉部などのような子どもたちが小さい時から地域活動に関わる体験、蓮福寺の高校サロンのような若者の意見を聞き、若者の活動の場などのようなことが地域活動人材づくりに必要であると思われる。